

# 50代、60代になると半数以上の男性に症状あり

治療には薬や内視鏡手術、レーザー手術などが



ほこいし医院 鉦石文彦 医師  
日本泌尿器科学会専門医・  
指導医  
所属学会:日本排尿機能学  
会ほか

排尿の時に何かを感じた男性は、1度泌尿器科で相談してみてください。

症状ばかりでは完全に診断できません。ある程度の検査をします。基本的な検査として、検尿で炎症の有無や他にトラブルが隠れていないか調べます。それから超音波検査を行い前立腺の大きさや形など肥大の状況を観察します。尿の勢いを測る機械もあり、何秒で排尿でき1秒間に何ccの勢いで出たかを測定します。必要に応じてより精密な検査

を切つて手術する事もありますが、内視鏡手術が発展し、現在は内視鏡手術が主流です。最近ではレーザーを利用する方法を用いることで、大きな前立腺もより安全に手術できるようになりました。

## 診断・治療はどのよう?



もういっしょに悪くなる前立腺の抵抗に負け、しぼりきれない尿が膀胱に残るようになり、これを「残尿」と呼びます。膀胱の筋肉が限界を超えると、どんどん残尿が増え、筋肉は力を失い伸びきった膀胱になつてしまいがちです。

前立腺は栗の实くらゐ、50代、60代になると半数以上の人が大きくなり、膀胱の筋肉に余計な力が入った状態が続くようになります。その結果、膀胱が不安定になり急に尿意をもよおしたり、トイレに着くまでに尿が出始めてしまいます。この症状は「過活動膀胱」の症状であり、前立腺肥大による過活動膀胱と診断されることが

あります。前立腺は栗の实くらゐ、50代、60代になると半数以上の人が大きくなり、膀胱の筋肉に余計な力が入った状態が続くようになります。その結果、膀胱が不安定になり急に尿意をもよおしたり、トイレに着くまでに尿が出始めてしまいます。この症状は「過活動膀胱」の症状であり、前立腺肥大による過活動膀胱と診断されることが

## 前立腺は栗の实くらゐ?

あります。